

卒業式の「学校長式辞」(前編)です。

令和2年3月1日(日),「茨城県立並木中等教育学校 第7回卒業式」を挙行いたしました。今号と次号(第467号)で「学校長式辞」の全文を掲載します。西洋絵画を代表する画家の一人「ポール・セザンヌ」が登場する式辞です。

◆卒業式での「学校長式辞」—前編—◆ 「近代絵画の父 ポール・セザンヌ」式辞

- 梅香る今日のよき日に、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに、茨城県立並木中等教育学校第7回卒業式を挙行できますことは、私どもとしまして大きな喜びであり、本校教職員を代表しまして深く感謝申し上げる次第でございます。
- 保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。6年前を思い出され、お子様の成長に感激もひとしおのことと思います。中等教育学校の6年間は、自立へ向かい、自己の価値観や生き方の基礎を築く大切な時期であります。ご心配やご心労もあったと存じますが、お子様は、自らの人生を切り拓いていくのに十分な力を蓄え、今日の日を迎えております。皆様のこれまでのご協力に感謝しますとともに、本日のお子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。
- ただ今、卒業証書を授与しました152名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、「Be a top learner !」の校是のもとで、本当によく学びました。私は、これまでの皆さんの努力に対し、敬意を表するとともに、本日、この並木中等教育学校を巣立つ皆さんが、夢に向かって大きく飛躍することを期待しています。
- 本日は、皆さんのこれからの活躍を期待して、まず一人の画家の話をしたいと思います。その画家は、「ポール・セザンヌ」。1839年に南フランスのプロヴァンスで生まれた近代西洋絵画を代表する画家の一人です。
- 皆さんは、セザンヌと聞いてどんな絵を連想しますか。多くの方が、リンゴなど果物の静物画かと思います。また、彼は何派の画家でしょう。多くの方が、モネやルノワールと同じ印象派の画家だと思われるでしょう。実は、私も昔はそう考え、大好きな印象派の画家の一人としてセザンヌの絵画を鑑賞していました。
- しかし、近年、美術展覧会マニアとして、数多くのセザンヌ作品を鑑賞し、セザンヌが極めて革新的な画家だったことが分かりました。彼は、当初、モネやルノワールと同じ印象派のグループの一員として活動していましたが、40歳のころからグループを離れ、絵画の約束事にとらわれない独自の絵画様式を探究したのです。
- 私が特に印象的なのはセザンヌの「自然を円筒と、球と、円錐によって扱う」という言葉です。例えば、サント・ヴィクトワール山を描いた風景画の連作を観るとそれがよく分かります。そして、彼の絵画は、キュビズムをはじめとする20世紀美術に強烈な影響を与えることとなります。ジョルジョ・ブラックも、パブロ・ピカソも、アンリ・マティスもセザンヌの大きな影響のもとで、前衛的な絵画表現を構築していったのです。そのため、セザンヌは「近代絵画の父」とも呼ばれています。(次号に続く)

